

〔課題演習抄録〕

自己学習力育成をめざした授業づくり
ー中学校国語科における「論理過程思考」を基にした書く活動を通してー

三 木 祐 佳 里

Yukari MIKI

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：自己学習力，「論理過程思考」，思考の可視化，書く活動

1 研究の目的

DeSeCo のキーコンピテンシーの核心である“Reflectivity”（思慮深さ）の背景には，kegan の理論の自己の主体と客体の均衡を「コントロールする」ことがある。これは，「物事を客体化していくプロセス」（本渡葵 2013）である。これらについては，2015 年 3 月に国立教育政策研究所から報告された研究成果にも反映されている。それは，「思考プロセスを内省的に振り返」ることの重要性である。このことは，学習者の主体的な学びには不可欠な内容である。では，自己を客観視することはどのようにして可能になるか。井上哲志（2015）は，「思考を可視化すること」を指摘し，「自分の考えついた，数ある選択肢の中から、『何を表現し，何を表現しないのか』という判断」の重要性を挙げた。

以上のことから，本研究では学習者が自己の「思考プロセスを内省的に振り返」ることによって，自己の特性や課題を自ら発見し，学習者自身で学習していく自己学習力の育成をめざす。その際の方法としては，井上の「思考を可視化する」という指摘から，書くという言語活動を用いる。具体的には，学習の過程に自己の学習内容の成果や課題，学習方法の特性に気づき，ふりかえる機会の設定とふりかえりで活用するシート等の開発である。これらを通して，学習者の中に自己の思考を客観化していくプロセスを学びとらせ，それを基に自己学習力の育成に努める。

2 研究の計画

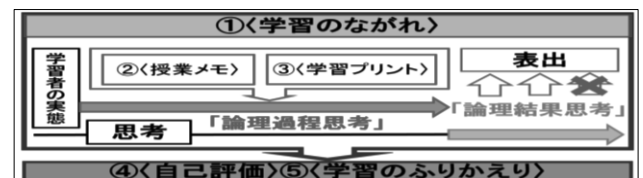
時期	研究内容
M1 前期	・ 先行研究
M1 後期	・ 先行研究 ・ 子どもの実態把握のための調査・分析 ・ サポート実習において実践・考察
M2 前期	・ 先行研究 ・ 子どもの実態把握のための調査・分析 ・ TA 実習において実践・考察①
M2 後期	・ 先行研究 ・ TA 実習において実践・考察② ・ 研究のまとめ

3 研究の内容

(1) 先行研究

思考過程を研究する幸坂健太郎（2011）は，論理的思考能力の育成に対し，次のように述べる。「結果的な思考に加えて，学習者が眼前に言語化された論理を聞く・読む際に，どのような思考を働かせているのか，また，論理を話す・書くまでにどのような思考を働かせているのかという思考過程を看取り，働きかける必要がある」。幸坂は，論理的思考概念を「思考結果」と「思考過程」に区分し，「論理結果思考」と「論理過程思考」に定義している。

本研究では，まず，幸坂健太郎（2011）による「論理結果思考」と「論理過程思考」を援用した学習における授業展開を考案する（資料 1）。



（資料 1）「論理過程思考」と「論理結果思考」に基づく授業展開（三木 2018）

授業は，（資料 1）の授業展開に基づいて行う。学習者は①〈学習のながれ〉や②〈授業メモ〉，③〈学習プリント〉を根拠に，④〈自己評価〉，⑤〈学

習のふりかえり〉により自己の学習について客観化し、自己の特性に合わせて学習を進める。

(2) 授業実践

①授業実践Ⅰ

i) 授業の概要

授業実践の概要は以下の通りである。

日時	平成30年6月20日(木)～25日(月)
時間	全3時間「新しい短歌のために」「短歌を味わう」
対象	福岡県内公立中学校2年生
主眼	○観点を明確にして、短歌の構成や表現の効果について考えることができる。 ○根拠や表現の効果を考えて、自分の考えが伝わる文章を書くことができる。
展開	1時間目 「見通し・準備・まとめる」 既習事項・観点の確認を行う 2時間目 「活用」 観点を基に考え書く 3時間目 「確認」 観点の効果を考え書く

連続した3時間の単元の実践である。(資料1)に基づき、毎時間〈自己評価〉〈学習のふりかえり〉を行う場面を設定して授業を行った。

授業における〈学習のふりかえり〉は、(資料2)の通りである。〈自己評価〉はABCの3段階、〈学習のふりかえり〉にはできたことや取り組みの過程を記述させた。学習者が自覚的に自己の記述や学習した内容を根拠として引き出せるための工夫として、〈授業メモ〉や〈学習プリント〉が、〈自己評価〉〈学習のふりかえり〉のための根拠となるように設計した。

見通し これまでの学習をふりかえり今日のめあてを確認する A・B・C	準備 自分が気になるもの、わからないものを整理する A・B・C	まとめる 自分が気になるもの、わからないものを「学習シート」に調べてまとめる A・B・C	活用 学習したことを生かして短歌を「鑑賞」してみよう A・B・C	確認 これまでの学習をふりかえり A・B・C
--	---------------------------------------	--	--	------------------------------

(資料2) 授業実践Ⅰにおける〈学習のながれ〉

ii) 授業の考察(〈学習のふりかえり〉の記述から)

学習者の〈学習のふりかえり〉の記述からは、学習者が〈学習のながれ〉を基に、自己の特性に合わせて、学習に取り組み、〈授業メモ〉や〈学習プリント〉を根拠に、自己の学びの価値づけができていたことがわかった。しかし、教材や学習内容に関する点や学習の目的についての価値づけの記述が少なかった点から、学習者自身が教材や学習内容と自己を関わらせているかという主体的な学習について課題が残った。

②授業実践Ⅱ

i) 授業の概要

不連続の4時間の単元の実践である。不連続であるため、最初の授業で〈学習のながれ〉を計画表として示すとともに、学習者が毎時間〈自己評価〉〈学習のふりかえり〉を行う場面を設定した(資料3)。〈自己評価〉は前回と同様、〈学習のふりかえり〉は、自己の状況への気づきと気づきの根拠となる学習を記述させた。また、〈学習のながれ〉

れ〉には、めざす力をキーワードで分類したものを示し、本時の学習の目的や内容について見通しを明らかにした。学習者は〈学習プリント〉を根拠に〈自己評価〉〈学習のふりかえり〉を行った。これは、学習者が学習の内容や目的、取り組みを根拠に自己の特性や課題に気づくことを意図しており、自己の学習への客観化の促しにつながる。

自己評価 (A・B・C)	学習プリントの「今日のふりかえり」をもとに、「学習プリント」や「チャレンジ問題」に振り返り記入したことを書くこと。 ①自分の今日のふりかえりについて書くこと。 ②自分の今日のふりかえりについて書くこと。 ③自分の今日のふりかえりについて書くこと。	【1】知識・理解 【2】思考・表現 【3】内省 【4】文の構造や内容、順序 【5】短歌の形式・表現等から考えをもつ 【6】短歌の形式・表現等から内容をつかむ	1
学習者の記述の記入		【1】文の構造や内容、順序 【2】短歌の形式・表現等から考えをもつ 【3】短歌の形式・表現等から内容をつかむ	4

(資料3) 授業実践Ⅱにおける〈学習のながれ〉

ii) 授業の考察(〈学習のふりかえり〉の記述から)

学習者の記述には、学習が〈学習のながれ〉等を基に、これまでの学習を踏まえた上での自己への気づきや自己の特性や取り組みへの気づきが示されていた。しかし、学習内容についてわかったことだけの記述にとどまるものが多かった。ここから、上記の学習内容に対する気づきと自己の特性をつなぐことができないこと、学習内容の自己選択という主体的な学習には至らないというような様子が捉えられた。このため、自己の客観化の促しが不十分であるという課題が残った。

4 成果と課題

本研究は、「思考プロセスを内省的に振り返」ることで自己学習力育成を意図したものである。自己の学習内容の成果や課題、学習方法の特性に気づき、ふりかえることで、学習者の中に自己の思考を客観化するプロセスを学びとらせることをめざした。成果として、学習者が学習を客観化する様子、前時との関連から自己の特性や課題に関わる記述も見られた。課題として、学習者が自己の特性を自覚し、学習を選択するためには、さらなる手立てが必要であることがわかった。今後は、学習者が自己の思考過程や学習過程を踏まえ、教材や内容を自己選択できるための指導に取り組む。

主な引用・参考文献

- 本渡葵 (2013)「発達障害と国語教育—Kegan, R.の理論とかがわらせて—」広島大学大学院教育学研究科紀要第一部第62号, 157-162
- 国立教育政策研究所 (2015)「資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究」研究報告書1～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～
- 井上哲志 (2015)「批評力に注目した言語活動の実践」滋賀大学教育学部附属中学校『研究紀要』第57集, 8-13
- 幸坂健太郎 (2011)「国語科教育における論理的思考力育成のための学習開発—論理過程思考の観点からの先行実践の分析—」全国大学国語教育学会発表要旨集 (121), 223-226